

新除草・調節剤

水に稀釈し、均一懸濁液として土壌表面に均一散布する。

使用上の注意；C I - I P Oと同様に気温20℃以下が望ましいので、高温時はさける必要があり、寒地に適する。処理時期は、作物の播種後～発芽前であるが、除草効果の上からは発芽期に近いほど有効である。また、播種深度が極端に小さい場合は、発芽前でも薬害を生ずることがあるので、使用をさけること。

セレクト水和剤

C M P T 除草剤

（取扱メーカー）三井東圧化学株式会社

対象作物；小麦・二条大麦（いづれも多株穴播を除く）（畑作麦・水田裏作麦）

性状・作用特性；本剤は、チアゾール系の除草剤で、その主成分として、5-クロロ-4-メチル-2-プロピオンアミドチアゾール50%を含む水和剤であり、麦類の生育期に茎葉処理して、麦類に害なく、広葉雑草はもちろんのこと、スズメノテッポウ・スズメノカタビラな

どのイネ科雑草も選択的に枯殺する効果がある
本剤の土壌移行性は小さい。

毒性；人畜および魚類に対する毒性は極めて低く、急性経口毒性はマウスLD₅₀ = 2,080 mg/kgであり、魚毒性はT L M（48時間） = 31 ppmである。

使用方法；広葉雑草の優占畑作地帯では、広葉雑草の発生盛期より4葉期までに、またスズメノテッポウなどの優占水田裏作地帯では、スズメノテッポウなどの発生盛期より2葉期までに、製品量400～800gを10a当たり70～100ℓの水にうすめ、雑草の茎葉に充分かかるように、全面散布する。

使用上の注意；本剤は土壌処理効果がないので、雑草の発生前に散布しても効果がないため、発生前に散布しないこと。また、散布直後に大雨があると、除草効果が低くなるので、天候に注意して散布すること。なお、土壌水分の高い状態で散布すると、麦類に葉先枯れなどの薬害がでることがあるので、湿害の多発するような地帯では、充分に注意すること。

編集後記

山野の雑草や樹木も色づき、一面に紅葉のスクリーンをくりひろげる。

本号には、新潟県農業試験場伊藤四郎氏より「カキの摘果剤」、九州農業試験場野田健児氏より「休耕田と雑草対策」について貴重な原稿をいただき、掲載いたしました。

発刊にあたり、各位に対し謝意を表するとともに、今後ともご指導賜わるようお願いする。

財団法人 日本植物調節剤研究協会

東京都港区芝西久保桜川町26番地

電話 東京(03)502-4188(代)

昭和45年10月発行

第4巻第6号

¥70(送料35)

編集人 日本植物調節剤研究協会会長 河田 党

発行人 植調編集印刷事務所 広田 伸七

東京都港区芝愛宕町1-3, 全国農村教育協会内
発行所 植調編集印刷事務所

電話 東京(03)436-3388番